

平成27年度学校自己評価アンケートの分析

学校自己評価研究委員会

1 はじめに

本校の自己評価の分析結果は、棒グラフを用いて、生徒・保護者・教職員別に、それぞれ回答の選択肢の左から「はい・そう思う」「だいたいそう思う」「あまりそう思わない」「いいえ・そう思わない」「わからない」の順で、パーセンテージで示している。肯定的な回答と否定的な回答の境界の位置を見ることにより、評価の全体像を把握したいと考えている。今年度も昨年同様、今後に生かせる記述が多く寄せられている。特に保護者の記述は、保護者の求めることを知る上で参考になる意見が多い。

2 分析

生徒については、すべての項目において昨年より肯定的回答の割合が増えている。特に「1 目標である『本物を目指す』を知っている」に対して30ポイント増加しており、学校の方向性について約9割の生徒が認識していることがわかった。また、「2 教育活動は、あなたが望んでいるものと一致している」についても10ポイント増加している。

保護者については、すべての項目において昨年と変わらず、多くの項目で肯定的回答が8割を超えている。反対に肯定的回答が少ないのは、「1 学校経営計画について知っている」という項目であり、依然として学校経営計画が保護者に知られていない現実がある。その他の肯定的回答が8割に満たない項目も昨年と同じである。アンケートの回収率は64パーセントで、昨年より1ポイント増加した。

教職員については、新たな質問項目「3 生徒が学校生活に満足できるよう努めている」に対して、約9割の教職員が努めていることがわかった。昨年より肯定的回答が増加しており、「1 学校経営計画の共通理解」では7ポイント、「1 1 施設・設備の充実」では13ポイント増加している。これは、教室へのICT機器の配置や改修工事などが反映されたものと思われる。

生徒・保護者と教職員の評価が分かれているのが、6の「相談」に関する項目である。依然として生徒・保護者にとっては敷居が高く、相談を躊躇する傾向がある。昨年より生徒の肯定的回答が7ポイント増加しており、相談しやすい雰囲気づくりができつつあると思いたい。

肯定的回答が生徒・教職員ともに低かったのは、5の「生徒指導」「8 部活動やホームルーム活動、生徒会活動に積極的に参加している生徒が多い」という項目である。いずれも昨年より3～5ポイント増加しており、低調傾向に歯止めがかかったと思われる。

3 今後の課題

以上から、保護者に学校経営計画を知ってもらうこと、生徒・保護者に教育相談体制を有効に利用してもらうこと、部活動・ホームルーム活動・生徒会活動を活発にすることなどが、今後の課題である。